

角野郷土芸能 次代へ

別子銅山せつとう節保存会

坑内員作業歌 伝承に力

「せつとう節」は角野の郷土芸能を次代につなぐたい。新居浜市角野地区の住民でつくる「別子銅山せつとう節保存会」が、別子銅山で働く坑内員によって歌い継がれた作業歌「せつとう節」の伝承活動に力を入れている。



別子銅山せつとう節の練習に励む保存会メンバー

別子銅山は1691 出稼ぎに来た人らが江戸時代から歌い継いできたと伝わる。せつとう節は定かではないが、手掘りで銅鉱石を採る歴史であるせつとう

せつとう節の仲持ちの所作をメンバーから教わる真鍋さん(中央)



「別子銅山せつとう節保存会」に、高校生が加入することになった。新居浜南高校ユネスコ部の1年真鍋沙綾さん(16)が8日、初めて練習に参加。メンバー一同は「若い人が興味を持って歌い継がれてほしい。会に活気が出る」と喜んでいる。

真鍋さんは角野地区在住で、ユネスコ部で別子銅山の歴史を学んでいる。7月に角野公

(門田龍二)

高校生加入 追い風に

節を継承しよう」と、角野地区の元坑内員ら有志が86年11月に「別子銅山せつとう節保存会」を結成。96年に現在の名称に変更した。今年40周年を迎える。現在の会員は16人。毎月第2、4土曜日に角野公民館で練習している。近年は、高齢化の影響などで会員数が減っていたが、2025年度から会員拡大に向けて地域を巻き込んだ取り組みを強化。角野中学校や新居浜南高

いきいきてくてく in 新居浜

「角野郷土芸能次代へ 別子銅山せつとう節保存会」

2026年8月19日付愛媛新聞

(掲載許可番号: d20260819-03)